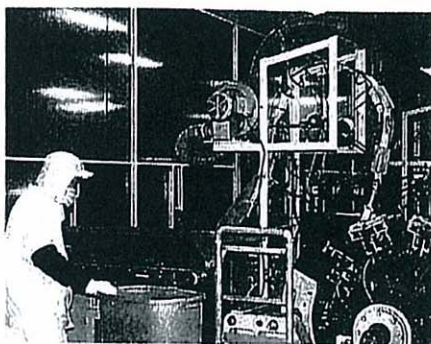


飲料の容器成型機・充てん機

インド企業と提携

備南工業、南アジアで拡販

食品機械メーカーの備南工業（広島県福山市、小坂章則社長）は、ポリエチレン製の飲料容器用の成型機と飲料を容器に注ぐ充てん機の輸出販売で、インド企業などと提携した。インドを中心とする南アジアではパック入りのジュースなど加工食品の需要が増えており、地元企業のネットワークを活用して現地の食品加工会社への売り込みを強化する。



主力製品の成型機。充てん機とあわせて輸出する

今回提携したのはインドの電気関連システム設計会社のアサバヌテックニカルサービス（ハイデラバード市）と、インドと日本の企業の仲介業務を手掛ける広島マブテック（広島県三次市）の2社。備南工業が国内で生産した成型機、充てん機を広島マブテックを通じて輸出。アサバヌ社のネッ

トワークを活用してインドを中心にネパール、ブータン、スリランカの加工食品会社に成型機と充てん機を2台1時で売り込む。

同社の成型機はポリエチレンの小さい粒を熱で溶かして空気を注入し、管のような細長い透明な容器をつくり、最後は金型で挟んで型を付ける。この容器に充てん機でジュースなどを注入して飲料製品ができる。

価格は2台合わせて約3000万円を想定。初年度に3時、2年目に10時程度の販売を見込む。

アサバヌ社は販売した成型機や充てん機の保守も手掛けるため、備南工業に社員を研修目的で派遣した。

備南工業は約20年前から主力製品の成型機、充てん機の輸出を開始。現在は中国やタイのほか、米国やメキシコ、ヨルダンなど11カ国・地域に供給し、海外向けの年間売上高は多いときで2億円に達するという。

インドなど南アジア地域は「急速な経済成長で飲料など加工食品の消費が増えており、製造設備に対する現地企業の需要拡大が期待できる」（小坂社長）と評価。販路の開拓を進めて海外事業を一段と強化する。